

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月1日

【評価実施概要】

事業所番号	270700164		
法人名	社会福祉法人常光会		
事業所名	グループホームひばり苑		
所在地 (電話番号)	〒033-0111 青森県三沢市六川目六丁目28-6 (電話) 0176-59-3601		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 10月 31日	評価確定日	平成 20年 2月 1日

【情報提供票より】(平成 19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	4,500 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 850 円		

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 84.5 歳	最低 70 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三沢市立三沢病院・三沢聖心会病院・富田歯科医院		
---------	-------------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれた閑静な場所にあり、『地域の皆さんが認知症になっても安心して暮らしてほしい』という思いから地域性・利便性を考えて立ち上げたホームである。法人の理念のもと、ホーム独自の理念を自分たちの言葉で具体的につくり、笑顔でのケアに取り組んでいる。ホームは認知症研修の実習施設として実習生を受け入れており、第三者の目が頻繁にあることも刺激の一つとなり、利用者が安心して生活できるように、職員全員が試行錯誤をしながら環境を整えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査での改善課題である理念、役割の理解のための機会づくり、広報については、現在検討中であり、家庭的なものを求められた玄関周りでは、花や看板(利用者が作成)が設置され、温かい印象を受けた。また介護計画に沿った介護記録では、介護計画との整合性があり、総じて改善に向けた取り組みがみられる。今後更なる取り組みに期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	全職員で自己評価を行い、現在の自分たちのケアを振り返る機会としている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	年2回しか開催されていないため、ホームの紹介にとどまり、意見・要望などサービスの質の向上のための具体的検討がされていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族の面会時に意見・苦情・要望などを聞く機会づくりをしているが、面会が少ない又はない家族への働きかけが不十分である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所に住宅が少なく、ホームに立ち寄りたりすることは日常的にないが、会ったときは挨拶を交わしている。近くの中学校の運動会や文化祭への案内が来て出掛けたり、地域の祭りにも参加している。また、高校で認知症理解のための講話へも出掛け、地域への認知症普及のため取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を職員の言葉で具体的に作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りや会議を活用し、具体的な場面に触れながら理念についても話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近所に住宅が少なく、ホームに立ち寄りたりすることは日常的にないが、会ったときは挨拶を交わしている。近くの中学校の運動会や文化祭への案内が来て出掛けたり、地域の祭りにも参加している。また、高校で認知症理解のための講話へも出掛け、地域への認知症普及のため取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価について職員に伝え、全員で改善策を話し合い取り組んでいる。各自で自己評価も行い、自分たちのケアを振り返る機会としている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年2回の開催となっている。主な内容は「ホームの紹介」となっており、意見交換をしてサービス向上に結びつけるという会議には至っていない。	○	会議は2ヶ月に1回が義務付けとなっています。地域の理解や支援を得るためにも定期的に開催し、家族だけでなく第三者から様々な意見を引き出し、サービス向上につなげることが望まれます。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に来所した際に現状を伝え、困難ケースの相談をし、アドバイスをもらっている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中で制度を利用している方がいるため、説明をする機会を設けている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員が報告し、勉強する機会を設けている。何が虐待にあたるのかを全職員が理解している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい言葉で説明している。特に家族が不安に思っている料金、受診、入院時など質問に対して具体的に説明し、家族の理解を得ている。		
10	12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や状態変化があった際は報告しているが、定期的に暮らしぶりや金銭管理の出納の報告はされていない。	○	行事や利用者の暮らしぶりを掲載したお知らせを定期的に発行する予定とのことで、早期の実現を期待します。またその郵送にあわせて、金銭の出納についても同封することを提案します。
11	13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に要望・苦情などがないか働きかけている。バーベキューや敬老会などホームの行事にも参加を呼びかけ、気兼ねなく話せる機会づくりをしている。		
12	16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職以外はできる限り異動のないよう配慮し、馴染みの関係を継続するようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実務者研修に定期的に参加しているが、自発的な研修参加はない。2ヶ月に1回勉強会を開催し、研修報告会などを行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践研修の実習施設となっており、他施設の職員と情報交換する機会がある。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と連絡をとりながら情報収集し、利用者が心地良い環境づくりを行っている。雰囲気慣れてもらうために事前に見学も行っている。慣れるまではマンツーマン対応し、不安が解消されるよう見守っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	園芸や食事の準備・後片付けなど、共に行い、協働して生活している様子がうかがえる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に本人・家族から生活歴や意向を聞き取り、その人らしい生活ができるようにしている。また日々の中で発言や行動を大切に捉え、ケアする上での参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いを聞きながら、介護計画を作成している。家族面会時は、要望や意見を聞き、介護計画に盛り込むようにしている。	○	家族の面会がない方には、家族の意見が反映されていない状況があるため、電話や郵送などで家族の意向を確認したうえでの計画作成が望まれる。
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しを行い、状態変化がある場合は、その都度行なっている。日々の様子をケース記録に細かく記載し、新しい介護計画作成につなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊したり利用者がホームへ帰ることを認識できない場合は、馴染みの職員が自宅に迎えに行くなど対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医を受診しているが、状況により往診してもらえる機関もある。基本的に受診は家族対応として契約時、口頭で説明し同意を得ている。受診の様子をその都度情報交換している。	○	口頭だけの説明でなく、重要事項などに記載しうえて説明し、同意を得ることが望まれる。
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化した場合の本人・家族の意向を聞き、把握している。重度化した場合は、これからの生活について支援の方向性を相談し、情報提供を行なっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の会話や声かけ、対応の中で気になったことは記録にとめ、職員間で振り返るようにしている。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に追われがちだが、利用者への個別ケアの時間を1日10～30分は設けて、本人のペースに合わせながら希望を引き出し支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、準備、片付けなどは、利用者に押し付けにならない程度で、意欲を引き出しながらできることを役割分担して行なっている。食材や旬の話題に触れながら楽しい雰囲気作りを心掛けている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的に週4回で時間も決められているが、希望時には柔軟に対応している。入浴日以外は足浴を行い、満足感を得られるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々に楽しみごと(華道・のれん作り、刺繍など)を把握し、一緒に喜んだり、楽しくなるよう意欲が出るよう働きかけている。気分転換に外出する機会を設けている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は近所を散歩している。買物の外出支援や牧場へ出掛けたりして気分転換を図っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で勉強会を開催し、身体拘束に対する意識の徹底を図り、工夫し身体拘束をしないようにしている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は自動ドアにし、自由に出入りできる。行動は制限せず、職員全員で連携し見守りをしている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回併設施設を中心とした合同の訓練を実施しているが現状では、グループホームにとって訓練が実践に役立つ内容とはなっていない。	○	更に安全の確保を図るために、グループホーム独自の避難訓練の機会を設け、避難経路の確認や消火器などの使い方、災害時のマニュアル作成などをされることを提案します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の作成は栄養士と相談しながら行なっている。食事摂取量、水分摂取を大まかに把握・記載し、少ない場合は、捕食の提供をしている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、手洗い・うがいの徹底をし予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口や室内に花が飾られ季節感を演出している。掲示物(写真・作品など)は利用者の目線の高さでになっており、利用者へ配慮されている。既存のハードをカバーするために職員が工夫し、安心して暮らせる空間づくりに取り組んでいる。加湿器を使用し湿度管理している。		
35	80	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に使い慣れた物の持ち込みを働きかけている。居室の扉の窓にカーテンがかかっているが、廊下から居室内部が見える長さである。また、カーテンの柄が画一的で利用者の好みを反映したものにはなっていない。	○	プライバシーの保護や利用者の好みにも配慮したカーテンの設置が望まれます。

 は、重点項目。